

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Content includes 0191500057, 株式会社 鈴木総合サービス, 認知症対応型共同生活介護 グループホーム 平里の家, 北海道山越郡長万部町平里43番地23, 令和4年1月16日, 令和4年3月28日.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=0191500057-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Content includes 合同会社 mocal, 札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501, 令和4年3月11日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は自然に囲まれた環境の中にあり、落ち着いた雰囲気の中で生活を送る事ができます。また、施設理念の「ゆっくりと楽しく尊厳のある安全で安心した生活を守る」ことを職員全員が共有し、利用者個々の思いを汲み取る為に信頼関係を築くことから支援をはじめ、利用者様の尊厳を守り、敬意をもって日々接しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町の郊外にある自然豊かなエリアに位置する4ユニットの事業所で、建物は平屋建てで2つのユニットが渡り廊下で繋がりが夜間や緊急時等で協力し易い造りです。町唯一のグループホームとして開設15年を迎えました。認知症と精神疾患の重複症状の方々を当町のみならず広域的に受け入れ高齢者・障がい福祉向上に向け町と協働関係を築き運営がなされています。コロナ禍により例年の実施している事業所祭りや数々の慰問活動は自粛となっていますが、誕生会、敬老会はカラオケや職員の生演奏で祝い、職員の考案するゲームも多彩で利用者と職員で和やかに楽しむ姿があります。看護師資格を有する職員が4名在籍し医療者視点での介護力も高い状況です。一例ですが、認知判断やコミュニケーションに関わる聴力へのアセスメントなども実施して細部に渡る課題を介護計画に示し、最良となる生活をマネジメントしています。また、協力医療機関との良好な連携により適切な医療を受けられる支援に優れています。職員教育では年間計画を元に毎月内部研修を実施し、職員の知識習得と共に介護のレベルアップに繋がっています。利用を開始する前にそれぞれ落ち着いた方であったり暴言があった方、清潔保持が難しかった方が利用開始後に穏やかな表情になり生活の再構築となるなど、家族からも感謝の言葉が寄せられています。利用者の暮らしを守り、力を尽くすことに使命感と誇りを持ち取り組んでいる事業所です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取組の成果 (該当するものに○印), 項目, 取組の成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects like staff understanding, user safety, and family satisfaction.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①事業所内に理念を掲示して周知をしています。 ②機会がある毎に相手の立場になって考え利用者と接するように努力しています。	理念をパンフレットに明示し事業所内要所へ掲示しています。新任職員には理念の意味を伝え、全体会議でも理念について確認する機会があります。職員への意識づけに努めて事業所全体のものになるようにしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の方々が野菜や果物などの差し入れが届けられ、コロナ禍で交流ができない寂しさを話され、問題なく交流ができる事を楽しみに待っています。	コロナ禍により例年実施している交流は制限下にあります。住民から地産食材のお裾分けがあり、事業所や利用者を案じる温かい気持ちが届けられています。事業所内で地域相談員による研修会の開催協力が得られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々には、運営推進委員会や地域の保健福祉会議などを通じて、グループホームのご理解や認知症の方々に対する支援方法話し、今後は色々な相談にも受ける予定です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的開催し、現状報告を行いホームの理解と意見を取り入れて、質の向上に努めています。	運営推進会議は感染対策により、町議会議員や町民生委員、町役場の担当者と事業者内メンバーにて縮小での開催となっています。利用者状況や感染症対策、身体拘束適正化、行事、職員状況等について協議しています。議事録を家族へ送付しています。	コロナ禍により家族の参加が限られており、議事への意見や助言は参加者のみに留まっている状況です。会議は家族の意見や要望を聴取して運営に生かすための検討の場でもあるので、その仕組み作りと運用により、更なる運営推進会議の推進に期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	代表者や管理者は日頃から行政の担当者とは連絡を取りながら、施設と行政との連携を密に取り合い積極的に連携を図っています。	町の担当部署とは、介護保険制度や感染症対策、事故報告等について意見や指導等を得て、適切な運営となるよう連携し、入居相談や利用状況について情報交換しています。社会福祉協議会から行事の際の寄贈や職員の資格取得への助成などの協力が得られています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を行い、マニュアル等も整備し、ユニット会議や全体会議でも代表や施設管理者は「自分が拘束されたら、どう考えるか」と都度職員にも問いかけ、身体拘束への関心や意識を高め拘束しないケアに努めている。	身体拘束適正のための指針を定め、3か月に1度の身体拘束廃止委員会を開催しています。また、スピーチロックや身体拘束、認知症について等のテーマで内部研修を年2回以上実施しており、職員の意識定着に向けています。玄関は夜間帯のみ施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部評価に参加する機会を持ち、その都度内部研修等を行いつつ、会議などでは、常に利用者様に対する態度や言葉遣いに注意するように声掛けをして、虐待は絶対しない・行ってはいけない行為である事を周知し防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が制度について理解出来るように研修を行い、閲覧用資料として準備、配置しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	①入居の際に、事前に面談、見学及び説明を行い、理解・納得の上で契約とさせて頂いております。 ②電話や面会時には都度確認させて頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度、写真とコメントを入れて利用者様の様子を伝えていきます。また、面会時は直接要望が無いか確認し、家族の要望把握に努め運営に反映出来るように努めています。	家族へは広報誌と毎月、生活の様子を手書きした便りを写真付きで送付しています。現在はまん延防止期間により家族面会は中止していますが、電話や介護計画作成時などの接する機会で見聞しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表や管理者は、全体会議に毎月参加し職員からの意見や提案を聞く場を設け、ホームの運営に反映させる努力をしています。	各ユニットで話し合いがなされた案件を職員会議で協議する仕組みを設けて、職員一人ひとりの意見や要望を反映できるようにしています。年3回代表者による個人面談のほか、施設長と管理者もその都度職員と面談し、希望休や働き方、困り事などを聞き取り、働きやすい環境を整えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は、母子家庭等勤務時間に制限がある人に対しては、職務の調整を行い、また職員個々の能力・努力等を総合的に評価し、それぞれに応じた待遇を考え意欲的に勤務できる環境を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は、内・外部研修を通じて、グループホーム同士のネットワークや情報交換・新人研修・勉強会等で、サービスの質向上に向けての努力をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	道南グループホーム協議会を通じて、グループホーム同士のネットワークや情報交換・新人研修・勉強会等で、サービスの質向上に向けての努力をしています。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報をもとに対応策を考え、入居後は都度サービス内容の見直し及び修正により、少しでも安心してできる環境に配慮しています。		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にして間もない間は、こちらから定期的に電話による近況報告、面会時は家族からの困りごと、不安な事及び要望等を確認、守秘義務、個人情報保護のもと良い関係ができるよう努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報をもとに対応策をあらかじめ考え、必要に応じて、他のサービス利用も含めた対応を家族と相談しながら進めるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ること、出来ない事を理解した上で、今出来る事が継続出来るように支援し、生活の場での人間関係が築ける様に努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子を電話や面会時にお話したり、定期的に写真とメッセージカードを郵送し、良好な関係が保てる様に配慮し、「共に支えいく」関係作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の友人、知人との文通や電話で会話出来るように配慮しております。	コロナ禍以前は、近所に住んでいた方や化粧品の取り次ぎの訪問などで馴染みの方が気軽に立ち寄っていました。感染症の緩和の時期には健康チェックの下で窓やドア越しで家族との面会をサポートしていました。現在はまん延防止期間により家族とは電話や手紙でのやり取りを支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格、周辺症状を把握し入居者同士の関係が上手くいくように職員が調整役をして支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者契約終了後であっても相談を受けたり、ご本人とご家族の経過をフォローできる体制を整え努力しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者やご家族の意向を踏まえた上で暮らし方の希望の把握し、本人本位に取り組めるように努め、認知症の周辺症状が出た場合であっても、その状況に応じて柔軟な支援ができる様に努めています。	利用者の何気ない仕草や表情を職員が読み取り、本人の望んでいる事の把握に努めています。利用者の個別性や多様性に配慮し、伝わる言葉で意思を確認しています。把握した内容は介護記録に記してユニット会議で共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や他関係機関からの情報を得ながら、日々の生活状況と照らし合せて出来る限り馴染みの暮らし方が出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の中では職員同士の申し送りやケア会議等で情報の共有を行い、状況に変化があった場合は詳細は記録に詳しく残して、職員間で意見交換し統一したケアに努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン見直し時には、ご家族様に暮らし方に対する要望を再確認し、担当者会議での情報をもとに、その都度ケアプランの確認をした中で、現状に即した計画作成に努めています。	毎月のユニット会議で利用者カンファレンスを実施し、現状の確認や評価を行っています。介護計画作成時は、家族や医療関係者の意見等を踏まえ本人が安心して暮らすための計画を策定しています。介護計画支援状況を1日3回チェックしており、計画と支援への連動性を高めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	提供したケアと日々の様子を個別のケア日誌に残し、職員間で情報を共有し、ケアの実践や、介護計画の見直しに活かす様にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の個々にあった、柔軟な対応が出来る様に、常日頃から努力しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源を把握しながら、本人の身体能力が発揮・維持出来る様に、野外散歩やショートケアの利用など、暮らしが楽しめるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、家族の希望を伺い、町内医療機関、又は専門医療機関との連携を図り、受診等を決めています。月1回、精神科医が往診に来て下さり、定期検査等も行い健康管理に努めている。	協力医療機関への通院受診や月1回精神科の往診、医療連携での訪問看護の態勢を整え、利用者が適切な医療を受けられる支援に努めています。看護師資格を有する職員が4名在籍しており、健康状態の把握度が高く、医療との良好な連携が図られています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日々の状態を把握して看護師に報告・相談し、適切な対応が行える様にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と、サマリーや情報提供書の交換等を行い、本人や家族の支援を行っています。又、1週間以上の入院の際は症状確認の面談や電話での情報収集を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族様に説明し、重度化やリスク説明書を活用し、理解して頂ける様に努めています。又看取り対応に準ずる対応については、施設内で出来る事をできる限り努めるため、主治医と話し合い取り組んでいます。	利用契約書に「重度化になった場合の介護について」を明示し、利用契約時に説明して同意を得ています。医師の判断に基づき家族の希望を聴取しながら関係者全体で今後の方針を取り決めていきます。今年度は代表者が見元引受人となった利用者のターミナルケアを行いました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師や管理者による内部研修で、緊急時の初期対応について実践等、職員1人1人に行っております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	①役場・福祉課との連携を密に取り、災害時は、役職職員の協力も得られる様に連携を取っています。 ②施設内では避難訓練を継続的に実施しています。	令和3年12月に火災・夜間想定で避難訓練を実施し、消火器実射訓練を行っています。竜巻による停電災害時は職員が泊まり込み業務継続に尽力しました。災害備蓄品や自家発電機装置を設備しています。近隣に職員住宅があり率先して職員が臨場し救助支援活動を行う態勢となっています。	町と消防署、運営推進会議メンバーの協力を得ながら、自然災害発生時における業務継続計画(BCP)の策定について期待します。また、自然災害の訓練として防災マニュアルに基づいた図上訓練について期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し、状況に応じた言葉掛けや対応をしている。居室の出入りに際にも、ノックや声掛けをして、入るようにしています。	内部研修で認知症ケアや倫理について、個人情報及びプライバシーの保護等について学び知識や理解を深めています。職員は利用者に対し丁寧で優しさがある対応に努めています。個人記録類は各ユニットで他者の目に触れない場所で管理されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での食事や生活様式について希望を伺い、希望に沿うように支援しています。また、自己決定できるよう一人ひとりに応じた声掛けを行うように努め、自己決定が出来ない方に対しては、自分ならどう支援して欲しいかを考え、働きかけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々に対する希望や思いを優先し、一人ひとりの生活パターンを把握しながら、それぞれのペースに合わせ、支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地元美容師に来所依頼し、散髪や整髪をしてもらっています。また、職員は要望に応じて、化粧水・乳液・お化粧品・整髪などの支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	どら焼き作りを一緒に作ったり、調理の下ごしらえなど一人ひとりの状態に合わせて参加して頂いています。また、毎食後の食器拭きも利用者個々の能力に合わせて行って頂いております。	法人の管理栄養士が監修するバランスの良い献立で提供しています。3～6ヶ月ごとに利用者の嗜好・意向調査を行っており、日々の献立や行事食に反映させています。取れたての野菜や山菜料理など季節を感じられる食卓です。おやつと一緒に手作りしたり、食事作業にも携われるようにして食への意欲に繋げています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記載し、栄養士や看護師とも連携して、アドバイスを受けながら、トータルバランスも考えて支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の状態に合わせた方法で、毎食前後に口腔ケアを行っております。コロナ禍のため、歯科医師・衛生士の往診ができていないため、職員が一層注意してケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状況を記録し、個々の排泄パターンにあわせてトイレ誘導・トイレ介助・声掛け・声掛けをしている。また、ご本人にとってより自立的な最適な排泄が行える様に支援します。	排泄チェック表への記録により、個々の状態像を把握して排泄パターンの把握や健康状況を確認しています。尿意便意の無い方へは定時誘導で失禁を防ぎ、声かけは羞恥心に配慮しています。夜間は個々に合わせて誘導や定時交換をしています。排泄のアセスメントを行い、個々に沿った支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多いメニューの提供や体操・レクで体を動かす予防に努めている。また、記録にて排泄状況を把握し、状態に応じて下剤の使用や調整について医師と相談に応じ対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回の入浴ができるようにしている。またその日のご本人の体調や気分に合わせて柔軟な対応をしています。	利用者1名につき週2回の入浴を支援し、億劫がる方へは声かけを工夫しながら誘っています。利用者の動作に合わせての介助や音楽をかけたり肩にタオルをかけるなどの安心して入浴ができるようにしています。4ユニット全てにリフト浴があり、安楽に湯船に浸かれるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の様子を観察して、個々の生活習慣を把握し、状況や本人の希望などに合わせて、自室やホール、ソファで休息していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や文献はいつでも確認できるように、個別にファイルし状態に変化があれば随時看護師に報告し対応できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽鑑賞・パズル・塗り絵・テレビの視聴などご本人の趣味や興味のあること等ができるように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの周辺を散歩したり、車を利用してドライブや買い物等も出来るように支援しています。	コロナ禍により、家族との外出や外泊、これまで大勢で賑わい集っていたお祭りやお花見ドライブなども自粛となっていますが、感染症緩和の時期には感染対策を講じて、可能な範囲で戸外に出かけました。事業所周辺の散歩を始め、畑や庭仕事など外気に触れることを大切にしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお小遣いとして預かり、日用品の不足品を購入してます。本人管理可能な利用者様に、少額の金額を持たせている方が数名います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望または状況により電話や手紙のやり取りができるよう支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられる様な飾り付けを行い、行事に於いては、お楽しみの要素では、毎月行事も行っています。	共用空間はリビングとダイニングが一体になった造りで、利用者と職員と一緒に行事やレクリエーションを楽しんだり、ゆったりと過ごせる居場所となっています。キッチンからも外の景色が見渡せ、全体的に明るく開放感があります。床暖やエアコンを設備し利用者の快適性に配慮しています。季節毎に飾り付けを工夫して季節感を感じてもらえるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間があるホールには、入居者様同士でテレビを観ながら談話できるようにソファを配置し配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な範囲で使い慣れた物や家具を持参して頂き、家具の配置も使い勝手や安全面に配慮して、五本人や家族と相談して調整しています。	居室入り口に表札と、自室と分かる飾り付けがあり、各居室には介護用ベッド・マットレス・防火カーテン・照明・床暖房が備え付けられています。タンスや椅子、テーブルなどの使い慣れた家具を配置し編み物やパズルなど趣味を自室で行っている方もいます。一人ひとりに合った居心地の良い居室作りをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、手すりも設置して入居者の出来る事を増やす工夫をしている。入居者様の動線を考慮したうえで、家具の配置をして安全に生活できるようにしています。		